

少しずつ冬が近づいてきた気配がありますが、皆様におかれてはお元気でお過ごしでしょうか。

ちょうど、この原稿を脱稿しつつあるタイミングで、毎月、日系コミュニティによる記事、寄稿、俳句・短歌、行事等多岐にわたる情報をもたらしてくださっていた『モントリオール ブレテン』誌が2025年より休刊になるとの報に接しました。この場を借りて、これまで長年にわたり同誌の編集に携わってこられたボランティアの方々のご努力に対し心より多大なる敬意を表します。

・10月24日、ケベック州国際関係省（MRIF）の主催するレセプションに出席しました。レセプションの場では、ピロン国際関係大臣と、最近の日本ケベック関係について懇談するとともに、出席されていたイザベル・ブライス・ルゴー州首相夫人とも再会することができました。ケベック州は在外に34の事務所を有しており、東京にも事務所があります（東京の事務所はDélégation Généraleという最も格の高い事務所です）。ちょうど、同省がこれら在外事務所長会議を州都で行ったタイミングでのレセプションとなり、在京のラサール所長ともお会いし、互いの活動や情勢認識について意見交換することができてとても有意義でした。このような機会を設けてくれたMRIFに感謝します。

・10月30日、NB州マウントアリソン大学にて、国際交流基金トロントとの共催で、カナダ巡回日本映画祭を開催しました。「漁港の肉子ちゃん」「大河への道」を上映し、いずれも好評を博しました。この機会に、国際交流基金トロントの長谷川副所長が出張し、冒頭挨拶をされました。

・11月1日、昨年に引き続き、カナダ最大規模と言われるモントリオール国際旅行博視察に行き参りました。フロアの中心付近に置かれた日本のブースには、日本観光情報を求めて多くの人々が集まっているのが一見ただけでわかりました。我々が視察したのは平日午後でしたが、出展している方々によると、週末は更に来場者が増えるだろうとのことでした。日本が渡航先として大変人気が高いことを実感しました。最近の特徴としては、既に一回は日本に行ったことにある方が、次はどこに行こうかと少しニッチな行き先を探して情報を求めることも多いそうです。JNTO統計では2023年はカナダからは42万人のカナダ人が訪日されたとのことでした。



が、2024 年は 9 月時点ですでにこれに近い数字となっており、伸び率も 40% 近くとなっています。日本政府観光局 (JNTO) トロント事務所を中心に、東京都、関西地方自治体の連合、鉄道各社、旅行代理店等とともに、当館も共同で出展し、折り紙や書道といった体験型日本文化紹介を行い好評を博しました。総領事館は、今後とも、各種文化行事等を通じて、日本の魅力をカナダ・ケベックの方々に伝えて参ります。



・11 月 1 日、カール・ブラックバーン・ケベック州経営者評議会会長と面会し、ケベック州における経済や移民等に関して意見交換を行いました。



・日本の外務省が発行している外交青書は、国際情勢の推移及び日本の外交活動を取りまとめたものです。1957 年 9 月の第 1 号以来、毎年発行されており、最新版は 2024 年版です。その全文英語訳に加え、最近では、いち早く同版の仏語要旨版も出ています。日本外交の歩みを知っていただくための参考になれば幸いです。

<https://www.mofa.go.jp/policy/other/bluebook/index.html>

*上記の他にも、日本やカナダの様々な方や団体の関係者と意見交換などを行うことができ、大変有意義な 1 か月でした。

*本件メッセージは仏・英語にても、メルマガ購読者に配信しています。